

# 教育内容及び教育のボリューム等について(案)

## ○教育内容及び教育のボリューム

(大滝委員、田邊委員提出資料)

### 【共通科目】

教育内容	学ぶべき事項	教育のボリューム (時間)
臨床病態生理学	・臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を含む内容とする	60
臨床推論	・臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を含む内容とする	60
フィジカルアセスメント	・身体診察・診断学(演習含む)を含む内容とする	60
臨床薬理学	・薬剤学、薬理学を含む内容とする	60
疾病・臨床病態概論	・主要疾患(5大疾病)の臨床診断・治療を含む内容とする	90
	・年齢や状況に応じた臨床診断・治療(小児、高齢者、救急医学等)を含む内容とする	24
医療安全学	・医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を含む内容とする	24
特定行為実践	・多職種協働実践(Inter Professional Work = IPW)(他職種との事例検討などの演習を含む)を含む内容とする	18
	・特定行為実践のための関連法規を含む内容とする	6
	・根拠に基づいて特定行為の手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ内容とする	6
	・アセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を含む内容とする	6
計		414

# 【区分別科目】

特定行為区分 (研修の最小単位)	特定行為区分に含まれる行為	区分共通の教育のボリューム (時間)A	行為毎の教育のボリューム (時間)B	区分毎の教育のボリューム (時間)A+B
呼吸器関連 (気道確保に係る行為)	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節	21	12	72
	経口・経鼻気管挿管の実施※		21	
	経口・経鼻気管挿管チューブの抜管※		18	
呼吸器関連 (人工呼吸療法に係る行為)	人工呼吸器モードの設定条件の変更	15	12	63
	人工呼吸管理下の鎮静管理		12	
	人工呼吸器装着中の患者のウィーニングの実施		12	
	NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)モード設定条件の変更		12	
呼吸器関連 (長期呼吸療法に係る行為)	気管カニューレの交換	12	9	21
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺による採血	12	9	30
	橈骨動脈ラインの確保		9	
循環器関連	「一時的ペースメーカー」の操作・管理	9	9	45
	「一時的ペースメーカーリード」の抜去		9	
	PCPS(経皮的心肺補助装置)等補助循環の操作・管理		9	
	大動脈内バルーンポンピング離脱のための補助頻度の調整		9	
透析管理関連	急性血液浄化に係る透析・透析濾過装置の操作・管理	9	18	27
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーン抜去(腹腔穿刺後の抜針含む)	12	9	21
胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン抜去※	12	9	30
	胸腔ドレーン低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更		9	
心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン抜去※	12	9	21
創部ドレーン管理関連	創部ドレーン抜去	6	9	15
術後疼痛管理関連	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与、投与量の調整	12	9	21

特定行為区分 (研修の最小単位)	特定行為区分に含まれる行為	区分共通の教育のボリューム(時間)A	行為毎の教育のボリューム(時間)B	区分毎の教育のボリューム(時間)A+B
創傷管理関連	褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマン※	27	15	72
	創傷の陰圧閉鎖療法の実施		15	
	褥瘡・慢性創傷における腐骨除去※		15	
循環動態に係る 薬剤投与関連	持続点滴投与中薬剤(降圧剤)の病態に応じた調整	15	9	60
	持続点滴投与中薬剤(カテコラミン)の病態に応じた調整		9	
	持続点滴投与中薬剤(利尿剤)の病態に応じた調整		9	
	持続点滴投与中薬剤(K、Cl、Na)の病態に応じた調整		9	
	持続点滴投与中薬剤(糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整		9	
血糖コントロールに係る 薬剤投与関連	病態に応じたインスリン投与量の調整	15	21	36
栄養・水分管理に係る 薬剤投与関連	脱水の程度の判断と輸液による補正	12	12	36
	持続点滴投与中薬剤(高カロリー輸液)の病態に応じた調整		12	
栄養に係るカテーテル管理関連(中心静脈カテーテル関連)	中心静脈カテーテルの抜去	9	9	18
栄養に係るカテーテル管理関連(PICC関連)	PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入	9	12	21
精神・神経症状に係る 薬剤投与関連	臨時薬剤(抗けいれん剤)の投与	21	12	57
	臨時薬剤(抗精神病薬)の投与		12	
	臨時薬剤(抗不安薬)の投与		12	
感染に係る薬剤投与関連	臨時薬剤(感染徴候時の薬剤)の投与	33	30	63
皮膚損傷に係る 薬剤投与関連	抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施	27	12	39
ろう孔管理関連	胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換	24	12	48
	膀胱ろうカテーテルの交換		12	
計		324	492	816

注:※印の行為は、第3回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会(平成26年10月23日)終了時点で、継続検討が必要とされた行為(6行為)。

## ○教育を実施する際の留意事項

- 患者に対して実施する実習については、以下のプロセスで行うことが望ましい。
  - ①1例目は指導医(者)の医行為を見学または手伝い
  - ②2例目から指導医(者)の指導監督下で実施し、次第に指導監督の程度を軽くしていく(指導医(者)の判断で実施)
  - ③項目ごとの経験すべき症例数をスキルの難度に応じて5例又は10例程度とする
- 行為の評価に際しては、以下の方法で行うことが望ましい。
  - 特に侵襲性が高く、かつシミュレーションが可能な行為については、現場での実習を行う前に実技試験(OSCE)で評価する
  - 各種実習では、構造化された評価表を用いて観察評価を行う(DOPS; direct observation of procedural skills等)
  - 観察評価により「指導監督なしで実施できる」レベルと判定されることが求められる
  - ポートフォリオを利用して評価結果を集積し、自己評価、振り返りを促す
  - 実技試験、観察評価には第三者評価を導入する

- 現場での実習前にロール・プレイや模擬患者、シミュレータを利用するシミュレーション実習を行う。
- 研修受講者の知識及び能力等のばらつきを考慮し、指定研修機関において、研修開始時に能力評価を実施し、能力に応じて、履修の一部を免除すること又は補習を行うことが望ましい。
- 演習、実習の具体的な方法や、演習、実習に要する時間は、指定研修機関において定める。

○ 共通科目に必要と考えられる教育のボリューム等(案)

教育内容	学べき事項	具体的内容	必要と考えられる教育のボリューム(時間)	演習が必要な教育内容(該当に○)	実習が必要な教育内容(該当に○)	患者に対する実技が必要な教育内容(該当に○)	評価
臨床病態生理学	・臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を含む内容とする	臨床解剖学総論 臨床解剖学各論 臨床病理学総論 臨床病理学各論 臨床生理学総論 臨床生理学各論	60	○			筆記試験
臨床推論	・臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を含む内容とする	診療のプロセス 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習 医療面接の理論と演習・実習 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査 /病理検査/微生物学検査 /生理機能検査/その他の検査 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査 /超音波検査/CT・MRI /その他の画像検査 臨床疫学の理論と演習	60	○	○ 医療面接		筆記試験 各種実習の観察評価
フィジカルアセスメント	・身体診察・診断学(演習含む)を含む内容とする	身体診察基本手技の理論と演習・実習 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/頭頸部 /胸部/腹部/四肢/脊柱/泌尿・生殖 器 /乳房・リンパ節/神経系 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	60	○	○ 身体診察 手技		筆記試験 各種実習の観察評価
臨床薬理学	・薬剤学、薬理学を含む内容とする	薬物動態の理論と演習 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 主要薬物の相互作用の理論と演習 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習  ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	60	○			筆記試験
疾病・臨床病態概論	・主要疾患(5大疾病)の臨床診断・治療を含む内容とする	5大疾病の病態と臨床診断・治療の概論 悪性腫瘍/脳血管障害/急性心筋梗塞 /糖尿病/精神疾患 その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系 /腎泌尿器系/内分泌・代謝系 /免疫・膠原病系/血液・リンパ系 /神経系/小児科/産婦人科/精神系	90	○			筆記試験
	・年齢や状況に応じた臨床診断・治療(小児、高齢者、救急医学等)を含む内容とする	小児の臨床診断・治療の特性と演習 高齢者の臨床診断・治療の特性と演習 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	24	○			筆記試験
医療安全学	・医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を含む内容とする	医療倫理の理論 医療倫理の事例検討 医療管理の理論 医療管理の事例検討 医療安全の法的側面 医療安全の事例検討・実習 ケアの質保証の理論 ケアの質保証の事例検討	24	○	○ 医療安全		筆記試験 各種実習の観察評価
特定行為実践	・多職種協働実践(Inter Professional Work= IPW)(他職種との事例検討などの演習を含む)を含む内容とする	チーム医療の理論と演習・実習 チーム医療の事例検討 コンサルテーションの方法 多職種協働の課題	18	○	○ チーム医療		筆記試験 各種実習の観察評価
	・特定行為実践のための関連法規を含む内容とする	特定行為関連法規 インフォームドコンセントの理論 インフォームドコンセントの演習	6	○			筆記試験
	・根拠に基づいて特定行為の手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ内容とする	手順書の位置づけ 手順書の作成演習 手順書の評価と改良	6	○			筆記試験
	・特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を含む内容とする	特定行為の実践過程の構造 アセスメント、仮説検証、意思決定の理論 アセスメント、仮説検証、意思決定の演習	6	○			筆記試験
		計	414				

注:「演習」とは、講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業。症例検討やペーパーシミュレーションなどが含まれる。

注:「実習」とは、講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業。実習室(学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いる)や、現場(病棟、外来、患者宅など)で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習時間として算定できない。

## ○ 区分別科目に必要と考えられる教育のボリューム等(案)

特定行為の区分名	区分毎に必要と考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要と考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要と考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
呼吸器関連(気道確保に係る行為)	72	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節		○	○	1. 気道確保に関する局所解剖 2. 気道確保を要する主要疾患の病態生理 3. 気道確保を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 経口・経鼻気管挿管の目的 5. 経口・経鼻気管挿管の適応と禁忌 6. 経口・経鼻気管チューブの種類と適応 7. 経口・経鼻気管チューブによる呼吸管理 8. バックバルブマスク(BVM)を用いた手換気	21	1. 経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節の目的 2. 経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節の適応と禁忌 3. 経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節の手技	12	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
		経口・経鼻気管挿管の実施		○	○			1. 経口・経鼻気管挿管に伴うリスク(有害事象とその対策など) 2. 経口・経鼻気管挿管の手技 3. 気管挿管困難例の種類とその対応 4. 経口・経鼻気管挿管時の鎮静方法とその選択	21	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
		経口・経鼻気管挿管チューブの抜管		○	○			1. 経口・経鼻気管挿管チューブの抜管の目的 2. 経口・経鼻気管挿管チューブの抜管の適応と禁忌 3. 経口・経鼻気管挿管チューブの抜管に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 経口・経鼻気管挿管チューブの抜管の手技 5. 経口・経鼻気管挿管チューブの抜管後に予測される病態変化と再挿入の判断基準 6. 経口・経鼻気管挿管の再挿入の手技と再挿入不能時の対応方法	18	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
呼吸器関連(人工呼吸療法に係る行為)	63	人工呼吸器モードの設定条件の変更	○	○	○	1. 人工呼吸療法の目的 2. 人工呼吸療法の適応と禁忌 3. 人工呼吸療法に関する局所解剖 4. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理 5. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 6. 人工呼吸器管理の適応と禁忌 7. 人工呼吸器のメカニズム・種類・構造	15	1. 人工呼吸器モードの設定の目的 2. 人工呼吸器モードの設定条件の変更の適応と禁忌 3. 人工呼吸器モードの設定条件の変更に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 人工呼吸器モードの選択と適応 5. 人工呼吸器モードの設定条件の変更方法	12	筆記試験 各種実習の観察評価
		人工呼吸管理下の鎮静管理	○	○	○			1. 人工呼吸管理下の鎮静管理の目的 2. 人工呼吸管理下の鎮静管理の適応と禁忌 3. 人工呼吸管理下の鎮静管理に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 人工呼吸管理下の鎮静管理のための薬剤選択と投与量 5. 人工呼吸管理下の鎮静方法	12	筆記試験 各種実習の観察評価
		人工呼吸器装着中の患者のウィーニングの実施	○	○	○			1. 人工呼吸器ウィーニングの目的 2. 人工呼吸器ウィーニングの適応と禁忌 3. 人工呼吸器ウィーニングに伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 人工呼吸器ウィーニングの方法	12	筆記試験 各種実習の観察評価
		NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)モード設定条件の変更	○	○	○			1. NPPVモードの目的 2. NPPVモードの適応と禁忌 3. NPPVモード設定条件の変更に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. NPPVモード設定条件の選択 5. NPPVモード設定条件の変更方法	12	筆記試験 各種実習の観察評価

特定行為の区分名	区分毎に必要なと考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価	
呼吸器関連(長期呼吸療法に係る行為)	21	気管カニューレの交換		○	○	1. 気管切開に関する局所解剖 2. 気管切開を要する主要疾患の病態生理 3. 気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 気管切開の目的 5. 気管切開の適応と禁忌 6. 気管切開に伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行行為に「気管切開」に関係する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	12	1. 気管カニューレの適応と禁忌 2. 気管カニューレの構造と選択 3. 気管カニューレ交換の手技 4. 気管カニューレ交換困難例の種類とその対応	9	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価	
動脈血液ガス分析関連	30	直接動脈穿刺による採血		○	○	1. 動脈穿刺に関する局所解剖 2. 動脈穿刺に関するフィジカルアセスメント 3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方 4. 動脈血採取が必要となる検査 5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態	12	1. 直接動脈穿刺による採血の目的 2. 直接動脈穿刺による採血の適応と禁忌 3. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 患者に適した穿刺部位の選択 5. 直接動脈穿刺による採血の手技	9	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価	
		橈骨動脈ラインの確保		○	○	1. 動脈ラインの確保の目的 2. 動脈ラインの確保の適応と禁忌 3. 穿刺部位と穿刺・留置に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 患者に適した穿刺・留置部位の選択 5. 橈骨動脈ラインの確保の手技		9			筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
循環器関連	45	「一時的ペースメーカー」の操作・管理	○	○	○	1. 「一時的ペースメーカー」、PCPS、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖 2. 「一時的ペースメーカー」、PCPS、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理 3. 「一時的ペースメーカー」、PCPS、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	9	1. 「一時的ペースメーカー」の目的 2. 「一時的ペースメーカー」の適応と禁忌 3. 「一時的ペースメーカー」に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. ペーシング器機の種類とメカニズム 5. ペースメーカーのモードの選択と適応 6. 「一時的ペースメーカー」の操作・管理方法 7. 患者・家族への指導・教育	9	筆記試験 各種実習の観察評価	
		「一時的ペースメーカーリード」の抜去		○	○	1. 「一時的ペースメーカーリード」抜去の目的 2. 「一時的ペースメーカーリード」抜去の適応と禁忌 3. 「一時的ペースメーカーリード」抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 「一時的ペースメーカーリード」抜去の方法		9			筆記試験 各種実習の観察評価
		PCPS(経皮的心肺補助装置)等補助循環の操作・管理	○	○	○	1. PCPSの目的 2. PCPSの適応と禁忌 3. PCPSとそのリスク(有害事象とその対策など) 4. PCPS器機のメカニズム 5. PCPSの操作・管理の方法		9			筆記試験 各種実習の観察評価
		大動脈内バルーンパンピング離脱のための補助頻度の調整	○	○	○	1. 大動脈内バルーンパンピングの目的 2. 大動脈内バルーンパンピングの適応と禁忌 3. 大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 大動脈内バルーンパンピングの操作・管理の方法 5. 大動脈内バルーンパンピング離脱のための補助頻度の調整の適応と禁忌 6. 大動脈内バルーンパンピング離脱のための補助頻度の調整に伴うリスク(有害事象とその対策など) 7. 大動脈内バルーンパンピング離脱の操作・管理の方法		9			筆記試験 各種実習の観察評価

特定行為の区分名	区分毎に必要なと考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
透析管理関連	27	急性血液浄化に係る透析・透析濾過装置の操作・管理	○	○	○	1. 透析装置のメカニズム・種類・構造 2. 透析方法の選択と適応 3. 透析装置の操作・管理の方法 ※仮に行為に「透析濾過装置」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	9	1. 急性血液浄化に関する局所解剖 2. 急性血液浄化を要する主要疾患の病態生理 3. 急性血液浄化を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 急性血液浄化に係る透析の目的 5. 急性血液浄化に係る透析の適応と禁忌 6. 急性血液浄化に伴うリスク(有害事象とその対策など)	18	筆記試験 各種実習の観察評価
腹腔ドレイン管理関連	21	腹腔ドレイン 抜去(腹腔穿刺後の抜針含む)		○	○	1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖 2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 腹腔ドレナージの目的 5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌 6. 腹腔ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「腹腔ドレナージ」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	12	1. 腹腔ドレイン 抜去の適応と禁忌 2. 腹腔ドレイン 抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 腹腔ドレイン 抜去の方法と手技	9	筆記試験 各種実習の観察評価
胸腔ドレイン管理関連	30	胸腔ドレイン 抜去		○	○	1. 胸腔ドレナージに関する局所解剖 2. 胸腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 胸腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 胸腔ドレナージの目的 5. 胸腔ドレナージの適応と禁忌 6. 胸腔ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策など)	12	1. 胸腔ドレイン 抜去の適応と禁忌 2. 胸腔ドレイン 抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 胸腔ドレイン 抜去の方法と手技	9	筆記試験 各種実習の観察評価
		胸腔ドレイン 低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更	○	○	○	1. 低圧持続吸引の適応と禁忌 2. 低圧持続吸引に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 低圧持続吸引装置のメカニズム・構造 4. 低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更方法	9	9	筆記試験 各種実習の観察評価	
心嚢ドレイン管理関連	21	心嚢ドレイン 抜去		○	○	1. 心嚢ドレナージに関する局所解剖 2. 心嚢ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 心嚢ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 心嚢ドレナージの目的 5. 心嚢ドレナージの適応と禁忌 6. 心嚢ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「心嚢ドレナージ」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	12	1. 心嚢ドレイン 抜去の適応と禁忌 2. 心嚢ドレイン 抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 心嚢ドレイン 抜去の方法と手技	9	筆記試験 各種実習の観察評価
術後疼痛管理関連	21	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与、投与量の調整	○	○	○	1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖 2. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 硬膜外麻酔の目的 5. 硬膜外麻酔の適応と禁忌 6. 硬膜外麻酔に伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「硬膜外麻酔」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	12	1. 硬膜外麻酔薬の選択と投与量 2. 硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与、投与量の調整の方法	9	筆記試験 各種実習の観察評価

特定行為の区分名	区分毎に必要と考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要と考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要と考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
創部ドレーン管理関連	15	創部ドレーン抜去		○	○	1. 創部ドレナージに関する局所解剖 2. 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 創部ドレナージの目的 5. 創部ドレナージの適応と禁忌 6. 創部ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「創部ドレナージ」に関係する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	6	1. 創部ドレーン抜去の適応と禁忌 2. 創部ドレーン抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 創部ドレーン抜去の方法と手技	9	筆記試験 各種実習の観察評価
創傷管理関連	72	褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマン		○	○	1. 皮膚、皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 2. 主要な基礎疾患の管理 3. 全身・局所のフィジカルアセスメント 4. 褥瘡の分類、アセスメント・評価 5. 治癒のアセスメントとモニタリング 6. プレーデンスケールによるリスクアセスメント 7. 褥創治癒と栄養管理 8. 褥創治癒と体圧分散 9. DESIGN-Rに基じた治療指針 10. 褥創診療のアルゴリズム 11. 感染のアセスメント 12. 褥瘡のステージ別局所療法	27	1. 褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマンの目的 2. 褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマンの適応と禁忌 3. 褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマンに伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. DESIGN-Rに準拠した壊死組織除去の判断 5. 全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等) 6. 壊死組織と健常組織の境界判断 7. 褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマンの方法 8. 褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマンに伴う出血の止血方法	15	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
		創傷の陰圧閉鎖療法の実施		○	○	1. 創傷の陰圧閉鎖療法の目的 2. 創傷の陰圧閉鎖療法の適応と禁忌 3. 創傷の陰圧閉鎖療法に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 物理的療法の原理 5. 栄養評価 6. 創傷の陰圧閉鎖療法の方法		15	筆記試験 各種実習の観察評価	
		褥瘡・慢性創傷における腐骨除去		○	○	1. 褥瘡・慢性創傷における腐骨除去の目的 2. 褥瘡・慢性創傷における腐骨除去の適応と禁忌 3. 褥瘡・慢性創傷における腐骨除去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. DESIGN-Rに準拠した壊死組織除去の判断 5. 全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等) 6. 壊死組織(腐骨)と健常組織の鑑別、除去法 7. 褥瘡・慢性創傷における腐骨除去の方法 8. 褥瘡・慢性創傷における腐骨除去に伴う出血の止血方法		15	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価	
循環動態に係る薬剤投与関連	60	持続点滴投与中薬剤(降圧剤)の病態に応じた調整	○	○	○	1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 4. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 輸液療法の目的と種類 6. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 7. 輸液時に必要な検査 8. 輸液療法の計画	15	1. 降圧剤の種類と臨床薬理 2. 各種降圧剤の適応と使用方法 3. 各種降圧剤の副作用 4. 病態に応じた降圧剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴投与中薬剤(降圧剤)調整のリスク(有害事象とその対策など)	9	筆記試験 各種実習の観察評価
		持続点滴投与中薬剤(カテコラミン)の病態に応じた調整	○	○	○	1. カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 2. 各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 3. 各種カテコラミン製剤の副作用 4. 病態に応じたカテコラミン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴投与中薬剤(カテコラミン)調整のリスク(有害事象とその対策など)		9	筆記試験 各種実習の観察評価	
		持続点滴投与中薬剤(利尿剤)の病態に応じた調整	○	○	○	1. 利尿剤の種類と臨床薬理 2. 各種利尿剤の適応と使用方法 3. 各種利尿剤の副作用 4. 病態に応じた利尿剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴投与中薬剤(利尿剤)調整のリスク(有害事象とその対策など)		9	筆記試験 各種実習の観察評価	

特定行為の区分名	区分毎に必要なと考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
		持続点滴投与中薬剤(K、Cl、Na)の病態に応じた調整	○	○	○			1. 持続点滴によるK、Cl、Na投与の臨床薬理 2. 持続点滴によるK、Cl、Na投与の適応と使用方法 3. 持続点滴によるK、Cl、Na投与の副作用 4. 病態に応じた持続点滴によるK、Cl、Na投与の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴投与中薬剤(K、Cl、Na)調整のリスク(有害事象とその対策など)	9	筆記試験 各種実習の観察評価
		持続点滴投与中薬剤(糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整	○	○	○			1. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 2. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 3. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 4. 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 5. 持続点滴投与中薬剤(糖質輸液、電解質輸液)調整のリスク(有害事象とその対策など)	9	筆記試験 各種実習の観察評価
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	36	病態に応じたインスリン投与量の調整	○	○	○	1. 糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖 2. 糖尿病とインスリン療法に関する病態生理 3. 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント 4. インスリン療法の目的 5. 糖尿病とインスリン療法に関する検査(インスリン療法の導入基準を含む) 6. インスリン製剤の種類と臨床薬理 7. 各種インスリン製剤の適応と使用方法 8. 各種インスリン製剤の副作用 ※仮に行為に「インスリン」に関係する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	15	1. 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 2. 病態に応じたインスリン投与量の調整のリスク(有害事象とそれへの対応方法など) 3. 外来でのインスリン療法と入院の適応 4. インスリン療法に関する患者への説明	21	筆記試験 各種実習の観察評価
栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	36	脱水の程度の判断と補液による補正	○	○	○	1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 脱水や低栄養状態に関する主要症候 4. 輸液療法の目的と種類 5. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 6. 輸液時に必要な検査 7. 輸液療法の計画	12	1. 脱水に関する局所解剖 2. 脱水に原因と病態生理 3. 脱水に関するフィジカルアセスメント 4. 脱水に関する検査 5. 脱水の補正に必要な補液の種類と臨床薬理 6. 脱水の補液による補正の適応と使用方法 7. 脱水の補液による補正の副作用 8. 脱水の補液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9. 脱水の程度の判断と補液による補正のリスク(有害事象とその対策など)	12	筆記試験 各種実習の観察評価
		持続点滴投与中薬剤(高カロリー輸液)の病態に応じた調整	○	○	○		12	1. 低栄養状態に関する局所解剖 2. 低栄養状態の原因と病態生理 3. 低栄養状態に関するフィジカルアセスメント 4. 低栄養状態に関する検査 5. 高カロリー輸液の種類と臨床薬理 6. 高カロリー輸液の適応と使用方法 7. 高カロリー輸液の副作用と評価 8. 高カロリー輸液判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9. 低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク(有害事象とその対策など) 10. 高カロリー輸液に関する栄養学	12	筆記試験 各種実習の観察評価

特定行為の区分名	区分毎に必要なと考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
栄養に係るカテーテル管理関連(中心静脈カテーテル関連)	18	中心静脈カテーテルの抜去		○	○	1. 中心静脈カテーテルに関する局所解剖 2. 中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理 3. 中心静脈カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 中心静脈カテーテルの目的 5. 中心静脈カテーテルの適応と禁忌 6. 中心静脈カテーテルに伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「中心静脈カテーテル」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	9	1. 中心静脈カテーテル抜去の適応と禁忌 2. 中心静脈カテーテル抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 3. 中心静脈カテーテル抜去の方法と手技	9	筆記試験 各種実習の観察評価
栄養に係るカテーテル管理関連(PICC関連)	21	PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入		○	○	1. PICCに関する局所解剖 2. PICCを要する主要疾患の病態生理 3. PICCを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. PICCの目的 5. PICCの適応と禁忌 6. PICCに伴うリスク(有害事象とその対策など) ※仮に行為に「PICC」に関する新たな項目が加わることを想定した場合に共通して学ぶべき事項	9	7. PICC抜去の適応と禁忌 8. PICC抜去に伴うリスク(有害事象とその対策など) 9. PICC抜去の方法と手技	12	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
精神・神経症状に係る薬剤投与関連	57	臨時薬剤(抗けいれん剤)の投与	○	○	○	1. 精神・神経系の局所解剖 2. 神経学的主要症候 3. 精神医学的主要症候 4. 主要な神経疾患と病態生理 5. 主要な精神疾患と病態生理 6. 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント 7. 主要な精神疾患の面接所見 8. 神経学的検査 9. 心理・精神機能検査 10. 精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)	21	1. けいれんの原因・病態生理 2. けいれんの症状・診断 3. 抗けいれん剤の種類と臨床薬理 4. 各種抗けいれん剤の適応と使用方法 5. 各種抗けいれん剤の副作用 6. 病態に応じた抗けいれん剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗けいれん剤投与のリスク(有害事象とその対策など)	12	筆記試験 各種実習の観察評価
		臨時薬剤(抗精神病薬)の投与	○	○	○	1. 統合失調症の原因・病態生理 2. 統合失調症の症状・診断 3. 抗精神病薬の種類と臨床薬理 4. 各種抗精神病薬の適応と使用方法 5. 各種抗精神病薬の副作用 6. 病態に応じた抗精神病薬投与とその判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗精神病薬投与のリスク(有害事象とその対策など)		12	筆記試験 各種実習の観察評価	
		臨時薬剤(抗不安薬)の投与	○	○	○	1. 不安障害の原因・病態生理 2. 不安障害の症状・診断 3. 抗不安薬の種類と臨床薬理 4. 各種抗不安薬の適応と使用方法 5. 各種抗不安薬の副作用 6. 病態に応じた抗不安薬投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗不安薬投与のリスク(有害事象とその対策など)		12	筆記試験 各種実習の観察評価	

特定行為の区分名	区分毎に必要なと考えられる教育のボリューム【A+B】(時間)	特定行為の区分に含まれる特定行為名	演習が必要な行為(該当に○)	実習が必要な行為(該当に○)	患者に対する実技が必要な行為(該当に○)	共通して学ぶべき事項	共通して学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【A】(時間)	学ぶべき事項	行為毎に学ぶべき事項に必要なと考えられる教育のボリューム【B】(時間)	評価
感染に係る薬剤投与関連	63	臨時薬剤(感染徴候時の薬剤)の投与	○	○	○	1. 感染症の病態生理 2. 感染症の主要症候と主要疾患 3. 感染症の診断方法 4. 主要感染症の診断方法 5. 主要疾患のフィジカルアセスメント	33	1. 抗生剤の種類と臨床薬理 2. 各種抗生剤の適応と使用方法 3. 各種抗生剤の副作用 4. 感染徴候時に使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 5. 感染徴候時に使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 6. 感染徴候時に使用するその他の各種薬剤の副作用 7. 病態に応じた感染徴候時の薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 8. 感染徴候時の薬剤投与のリスク(有害事象とその対策など)	30	筆記試験 各種実習の観察評価
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	39	抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施	○	○	○	1. 抗癌剤の種類と臨床薬理 2. 各種抗癌剤の適応と使用方法 3. 各種抗癌剤の副作用 4. ステロイド剤の種類と臨床薬理 5. ステロイド剤の副作用	27	1. 抗癌剤等の皮膚漏出の病態生理 2. 抗癌剤等の皮膚漏出時の症候と診断(ペーパーシミュレーションを含む) 3. 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の適応と使用方法	12	筆記試験 各種実習の観察評価
ろう孔、カテーテル管理	48	胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換		○	○	1. 胃ろう・腸ろう・膀胱ろうに関する局所解剖 2. 胃ろう・腸ろう・膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理 3. 胃ろう・腸ろう・膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. カテーテル留置と利用者のQOL 5. カテーテルの感染管理 6. カテーテル留置に必要なスキンケア	24	1. 胃ろう・腸ろうの目的 2. 胃ろう・腸ろうの適応と禁忌 3. 胃ろう・腸ろうに伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 栄養に関する評価 5. 胃ろう造設の意思決定ガイドライン 6. 胃ろう・腸ろう造設術の種類 7. 胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの種類と特徴 8. 胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換時期 9. 胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換方法	12	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価
		膀胱ろうカテーテルの交換		○	○	1. 膀胱ろうの目的 2. 膀胱ろうの適応と禁忌 3. 膀胱ろうに伴うリスク(有害事象とその対策など) 4. 膀胱ろう造設術 5. 膀胱カテーテルの種類と特徴 6. 膀胱ろうカテーテルの交換時期 7. 膀胱ろうカテーテルの交換方法		12	筆記試験 実技試験(OSCE) 各種実習の観察評価	
計	816						324		492	

※平成25年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「看護師等の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究」(研究代表者 福井次矢)において報告された「指定研修における特定行為14区分41行為(案)の教育内容(案)」を基に、第2回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会での議論を踏まえ、特定行為区分(案A)に区分を組み替え、必要と考えられる教育の内容及びボリューム等を案として記載。